

義経伝説！ あまばらし によいのわたし 雨晴 & 如意の渡

◆雨晴にのこる義経伝説

雨晴海岸には行ったことがありますか？
ここに女岩めいわと義経岩よしつねいわという大きな岩があります。その2つの岩のある雨晴の風景は、
国の「名勝」に指定されています。

「名勝」とは日本で芸術上または鑑賞上の価値が高い重要な場所であり、国が指定した文化財なのです。県内では称名滝しょうみやうたきも「名勝」です。黒部峡谷くろべきやうこくはワンランク上の「特別名勝」（国宝クラス）ですね。

さて、この義経岩には、有名な伝説がのこっています。兄の源頼朝に追われた義経

らが、東北へ逃げる途中、この場所（渋谷しぶたに）でにわか雨に会い、家来の弁慶が岩を持ち上げ、その岩の下で晴れるのを待ったというのです。この伝説から「雨晴」が名付けられました。



作品名「剣のティアラ」 撮影 平木文子 氏



左側写真
雨晴の由来となった
義経岩

右側写真
伏木駅前にある義経
と弁慶の銅像

◆如意の渡にのこる義経伝説

その後、義経らはどこに行ったのでしょうか？義経らは、雨晴から伏木に来て、射水川（現在の小矢部川）を渡ろうとしました。そこには「如意の渡」という舟があり、それに乗ろうとすると、渡守わたしもり（舟の管理人）の平権守たいらのごんのかみが「この者は義経ではないか」と怪しんだので、弁慶はすかさず「こいつは白山から来た若い僧だ」と言い、義経を舟から引きずり降ろし、扇でたたきました。それを見た平権守は「この者が義経であるはずがない」と考え、舟に乗せました。これは室町時代につくられた『義経記ぎけいき』という物語に載っています。この物語をベースに「勧進帳かんじんちやう」という歌舞伎の演目が江戸時代につくられ、人気となりますが、場所が安宅の関あたかのせき（石川県）に変更されています。そのため、義経と弁慶の物語の舞台が伏木であったことが忘れられていったのです。高岡市は、小矢部川沿いの如意の渡があったとされる場所に、弁慶が義経を扇でたたいている像を設置しました。ちなみに、この渡し場では、平成21年まで「如意の渡し丸」という船が運行していました（縮尺模型が校長室前のケースにあります）。そして平成29年、その場所から近くの伏木駅前に像が移設されたのです。義経の時代から現在につながる、伏木の歴史ロマンです！